

茨城県農産物販売推進東京本部情報

令和2年(2020年)7月

1 東京都中央卸売市場(2020年1-6月)の青果物取扱高について

① 全体の入荷量は約91.0万tで前年比1%減、金額は約2634億円の前年比2%増となった。

② 茨城県産の入荷量は約12.0万tで前年並、金額は約313億円の前年比14%増となった。

(金額の内訳は、野菜約255億円、果実約57億円。前年同期比で野菜18%増、果実1%増、平年同期比で野菜3%増、果実2%増。)

金額が【増加】した品目(前年対比)：ばれいしょ類(268%)、はくさい(250%)、にんじん(197%)、ほうれんそう(139%)、
こだますいか(127%)

金額が【減少】した品目(前年対比)：れんこん(81%)、トマト(90%)

茨城県の青果物入荷量は平年比1%減(シェア13.2%)、取扱金額は同3%増(シェア11.9%)となった。

	市場計 ※2			茨城			他県のシェア(6月計)			
	1~6月計	年間計	年間比	1~6月計	年間計	年間比	千葉	北海道	栃木	
数量	2020	910,027		120,337	←シェア(13.2%)		13.5%	6.8%	3.5%	
	2019	919,876	1,916,676	48.0	120,174	222,375	54.0	13.8%	5.4%	3.7%
	(前年比)	99			100	シェア(13.1%)				
	平年値※	939,183	1,954,409	48.1	121,008	227,118	53.3			
	(平年比)	97			99	シェア(12.9%)				
金額	2020	263,426		31,250	←シェア(11.9%)		8.8%	2.1%	7.3%	
	2019	257,787	534,568	48.2	27,365	52,199	52.4	8.7%	2.8%	7.6%
	(前年比)	102			114	シェア(10.6%)				
	平年値※	276,062	565,288	48.8	30,479	57,490	53.0			
	(平年比)	95			103	シェア(11.0%)				

(単位：t, 百万円, %)

※1：平年値は2015-2019年の5年平均。

※2：市場計は東京都中央卸売市場における総計を表す。

《参考》
2019年実績
(1-12月計)

茨城県：金額シェア(9.8%)、数量シェア(11.6%)
千葉県：金額シェア(7.2%)、数量シェア(10.5%)
北海道：金額シェア(5.8%)、数量シェア(11.0%)
栃木県：金額シェア(6.0%)、数量シェア(3.2%)

2 東京都中央卸売市場(令和2年6月単月)の茨城県産青果物主要品目の取扱高

()内は前年対比

野菜類の入荷量は約19.5千トン(104%)、単価は267円(112%)、金額は約52億円(117%)

果実類の入荷量は約4.6千トン(101%)、単価は368円(104%)、金額は約17億円(105%)

※平年比(全国比)は、市場全体の数量、単価と、市場全体の2015-2019年同月の5年平均値との比率

	品目	数量(t)			単価(円/kg)				金額(千円)			
		前年比	平年比	平年比(全国比)	前年比	平年比	平年比(全国比)	前年比	平年比			
野菜	ねぎ	2,442	103	100	99	441	109	104	104	1,077,443	113	104
	ピーマン	1,956	96	96	101	493	132	140	140	964,054	127	134
	キャベツ類	4,088	88	94	107	84	122	110	111	343,764	106	104
	とうもろこし	1,056	101	98	103	245	95	96	100	258,483	96	93
	野菜総計	19,527	104	101	97	267	112	107	105	5,214,511	117	108
果実	メロン類	2,778	95	80	84	422	102	115	115	1,171,234	97	92
	果実総計	4,633	101	85	86	368	104	119	117	1,705,750	105	101

(野菜)

5月末に緊急事態宣言が解除され、6月は飲食店等の業務需要がやや増加したものの、大幅な回復には至らなかった。ばれいしょ類は、長崎県産が出荷終盤となり、また小玉傾向の産地があったため数量減による単価高傾向で推移した。果菜類は梅雨の曇雨天により生育が停滞し、数量減による単価高傾向で推移した。

(果実)

本県産メロンは、例年よりやや小玉傾向となり、数量減の単価高で推移した。競合となるもも類等の出荷量も、不作だった前年並となり非常に少なかったため、果実全体が単価高傾向で推移した。

6月は寒暖の差が激しく、気温が高くなる日があったため、量販店やスーパー等でのカット売り販売が好調であった。

※各数値は、東京都中央卸売市場実績を基に算出